

働き続けるために利用したい 病児・病後児保育

働く親にとって、予測不可能、突然やってくる子どもの病気にはいかに対応するかは頭を悩ますところですが、もちろん仕事を休んで病気の子どもの付き添えたらいいのですが、現実にはそう簡単にはいきません。近くにすぐ子どもを預けられる祖父母や親戚などがいれば頼ることもできるでしょうが、核家族化、祖父母の就労などでなかなか難しいのが現状です。そこで、必要とされているのが、病児・病後児保育です。

現在

在、京都府下の病児・病後児保育に関しては医療機関併設型が中心です。病中に預かってくれる「病児保育」は少なく、「病後児保育」が多く見られます。施設数も少しずつ増えてはいますが、本当に働かないといけない親にとってはまだまだ十分とは言えない状態です。担当医師側にとっても、行政からの委託を受けている場合でも、医師がきちんと関わればはるほど運営は厳しく、委託を受けていない場合は、医師側の熱意が活動を支えている現実があります。

「緊急サポートネットワーク」という画期的な事業が、全国で立ち上がったのもつかの間、厚生労働省からの委託金は近い将来打ち切られること。不況の中、働かないといけない親が子どもの病気のために仕事を失うことのないよう、本当に必要な支援の1つとしてどうしても継続していかないといいたい事業です。「子育て支援」が叫ばれるだけでなく、重要な支援にはきちんと予算が付いてほしい。病児の子どもが一人で家に取り残されることのないようにと頑張る多くの医師や保育士、そのほか大勢の関わる方たち。その思いが現実的対応として形になっていくことで、親たちが助かり、そして子どもたちが救われます。今後ますます発展して欲しい病児・病後児保育をまとめました。

国の子育て支援策の中、子育てと仕事の両立のための対策として行っている病児病後児保育が「乳幼児健康支援一時預かり事業」です。また、行政の委託を受けない民間の病児病後児保育施設もあります。

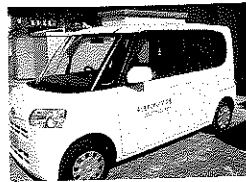
病児病後児保育とは、病児保育と病後児保育に分けることができます。病児保育とは病中病後の保育であり、病後児保育とは病気急性期を過ぎた回復期の子どもを保育をさします。

施設の形態としては、医療機関併設型、乳児院併設型、保育園併設型、単独施設型の4種類に大きく分かれ、医療機関併設型のみ、病児保育が可能とされています。

社会福祉法人 宇治病院内 緊急サポートネットワーク事業 「子どももすぐすぐケア・京都」

緊急サポートネットワークとは、就労、または求職中の方のお子さんの病児・病後児及び急な残業・出張の際の預かり、保育所・病児保育室等への送迎を行う事業です。各都道府県にサポートセンターがあり、京都府では、厚生労働省から社会福祉法人宇治病院が委託を受け、平成19年4月に京都府全域をカバーする「子どももすぐすぐケア・京都」が始まりました。

保育時間制限なしで、24時間受け付けます。遠方への「かけつけサポート」利用もでき、他の病児保育室などと組み合わせる会員も。小児科の事前受診はサポート会員が代行。宇治病院の小児科医師または看護師といつでも連絡が取れ、宇治病院病児保育室とも密接に連携。サポート会員数は現在262人。看護師・保育士資格者が多く、小児看護、家庭での応急手当など必要な知識を受講後、登録します。平成20年度4月から9月の利用件数は合計534件。京都市は307件と多く、ついで宇治市が168件。コーディネーターの辻香織さんは



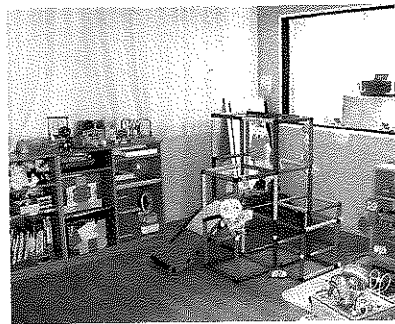
「預かる家でコーディネーターとサポート会員と一緒に顔合わせします。会員一人ひとりの状況に応じて、市町村をまたがって地域ごとに会員を捜します。必要不可欠な事業」と話します。平成23年3月で委託事業は終了しましたが、病児保育ディレクター代表の松本医師は「始まってまだ2年。やっと会員が集まりましたのに、残念。ぜひとも継続したい。京都府には病児保育(園)が9カ所しかない現状を考えると、各市町村のファミサポや団体、病院との連携を図り、一層の広報と利用促進を行いたい。2年後には、厚生労働省の予算はなくなるが、継続するために行政と企業にも協賛してほしい」と話しました。

【住所】〒611-0011 宇治市五ヶ庄芝の東54-2 社会福祉法人 宇治病院内
【TEL】0774-32-6311
【お問い合わせ時間】月～金 9:00～17:00
【URL】http://sukusuku-kyoto.jp/
【サポート対象】生後4カ月～小学6年生
【利用料金】月～金 8:00～18:00 1時間 900円
上記以外の時間帯と土・日・祝、年末年始 1時間 1,000円
【宿泊】20:00～翌8:00 1泊 8,000円

NPO法人 フロアレンス

名前はフロアレンス・ナイチンゲールのファーストネームに由来。全国に例のない画期的な「保険的病児保育サポートシステム」を立ち上げ、厚生労働省の緊急サポートネットワークのモデルにもなりました。代表の駒崎弘樹さん(29歳)が自身の体験から子どもが病気のときでも失職しないシステム作りをしようとして始めたのが活動のきっかけです。フロアレンスの病児保育とは、補助金なし、施設なし、保険共済型の病児保育。入会後、「月々いくら」と掛け捨て、いざ使うときは無料です。保育の人材を発掘し訓練後、子どもレスキュー隊員と呼ばれる保育スタッフ、小児科医と連携しながら、隊員の家庭、もしくは子どもの自宅で保育。子ども大好きな中高年の主婦たちが子育て経験を生かして大活躍しています。2005年に東京の下町の2区で始まり、現在東京23区で展開中。他府県でもフロアレンス方式を取り上げたところも出てきており、今後全国に広めていこうとしています。

他にも施設型の病児保育に関し



【住所】〒162-0822 東京都新宿区下宮比町3-1 津多屋ビル3F
【TEL】03-3235-6206
【FAX】03-3235-6207
【URL】http://www.florence.or.jp/

知っていますか？全国病児保育協議会

全国病児保育協議会は、病児保育事業の健全な発展、向上を期するため、全国的な連携を行うとともに、事業に関する協議・調査研究・広報並びに事業従事者の研鑽などに取り組む団体で、平成3年に大阪府枚方市で第一回設立総会が開かれました。結成当初14であった加盟施設数は、平成20年10月現在417まで増えているそうです。京都府では、宇治病院乳幼児健康支援「サービスセンター」(97ページ参照)、浅妻医院乳幼児健康支援「サービスセンター」(パピールM98ページ参照)、(医)慧仁会小児クリニック病児保育室「ウッピールム」(91ページ参照)、子どもサポートのKのび(ページ参照)、YAMAOCHI KIDS DAYCARE ROOM(ページ参照)、医療法人福仁会古川医院「住所福知山市宇裏の南町86」(電話077333224578)の六施設が加盟しています。

【名称】全国病児保育協議会
【住所】〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17 中野こども病院内
【TEL】06-6995214778
【FAX】06-6995418621
【URL】http://www.byojihoku.ne.jp
[e-mail] jimkyoku@byojihoku.ne.jp